

稲城長沼駅周辺地区 まちづくりニュース

平成21年 12月発行

NO.1

日頃より、地域の皆様におかれましては、稲城長沼駅周辺土地地区画整理事業にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

稲城長沼駅周辺土地地区画整理事業では JR 南武線連続立体交差事業にあわせ、駅前広場や駅前通り、公園等について、市民の皆様方や利用する方々の意向を取り入れながら、使い易く魅力にあふれた、安全で快適なまちづくりを進めてまいります。

本号は、まちづくりニュース第1号として、11月に開催した第2回まちづくり意見交換会の結果と、2月から開催する“市民ワークショップ”の概要についてお知らせします。

まちづくり市民ワークショップに参加いただける方を募集します。

稲城長沼駅周辺地区における公共施設の整備計画について、広く市民の皆様の見解をいただき、より良いものにしていくため、「まちづくり市民ワークショップ」を開催します。

ワークショップは、市内在住の方・区画整理区域内の地権者・商業者、関係団体などで構成します。まちづくり意見交換会にご欠席された方も、ワークショップからご参加いただくことが可能です。ご近所お誘いあわせの上、ふるってご参加いただきますようお願いいたします。



まちづくり市民ワークショップ 参加者募集要項

- 参加資格：稲城市内在住の20歳以上の方
- 活動期間：平成22年2月上旬～平成23年3月（予定）
- 会議時間：平日の午後7時～（1回2時間程度）・年4～5回程度
※初回は、稲城長沼駅周辺の“まち歩き”を予定しておりますので、土曜日の午後を実施します。
- 募集人員：20名
- 選考方法：応募多数の場合は、多様なご意見がいただけるよう、地域・年齢・職業などの参加者構成の均衡を考慮して決定します。
- 応募期限：12月25日
- 応募・問い合わせ：区画整理課 南武線・三駅整備係 稲城長沼駅周辺地区担当までご連絡下さい。

第2回 まちづくり意見交換会を開催しました

第2回まちづくり意見交換会を、去る11月5日（木）に開催し、地域の方14名にご参加いただきました。

日時：平成21年11月5日（木） 19時00分～21時00分
場所：消防署3階講堂
参加者：14名
アドバイザー：首都大学東京 都市環境学部 秋山哲男 教授、川原晋 准教授
内容：第1回意見交換会で頂いた意見のまとめと今後の対応
稲城長沼駅周辺地区のまちづくりの基本方針
商工会によるまちづくりへの取組みの紹介（※）
講演 地域主体のまちの空間づくり（※）
プレワークショップ「稲城長沼駅周辺地区のまちづくり」（※）

※印の項目については、以下に詳しく内容を掲載しています。

～「商工会によるまちづくりへの取組み」の講演内容～

稲城市商工会 峰尾事務局長より、稲城市経済課と商工会で昨年度実施したアンケート調査の結果をご紹介いただきました。

「駅前等を活性化するために欲しい施設」は、駐車場、夜も明るく歩きやすい幅広の歩道、気軽に利用できるトイレ等が多くあげられました。また、「稲城市の強み」は自然、緑が豊かといった自然の強みが目立つ結果となりました。

稲城市の商店街づくりは、地域密着型の商店の集積として、個性的、独創的な店舗を増やしていくことを、今後、商工会として検討していきたいとのことでした。



商工会 峰尾事務局長

お問合せ：稲城市都市建設部 区画整理課（担当：井上、持田）
〒206-8601 東京都稲城市東長沼2-1-1 番地
TEL 042-378-2111（代）/FAX 042-378-9719



～「地域主体のまちの空間づくり」の講演内容～

「地域主体のまちの空間づくり」をテーマに、首都大学東京 川原晋 准教授による講演を行いました。

「地域主体」のまちの空間作りを行なうには、様々な立場の生活者の視点からどのような地域資源があるかを発想すること、関係者など色々な人々で考えるプロセスが大事であること、つくっておしまいでなく、整備後の使いこなしを考えながら一緒に計画作りをしていくことが大事であるということ、様々なまちの事例を紹介されながらお話いただきました。



首都大学東京 川原准教授

～プレワークショップ「稲城長沼駅地区のまちづくり」の結果～

第2回意見交換会では、「稲城長沼駅周辺地区のまちづくり」をテーマに、地区の「強み」と「弱み」について、2つの班に分かれてプレワークショップとして皆さんに話し合っていました。

強みの主なものとしては、梨のまちとして農業と商業を活かせるといった強み、交通の便が良いことなどがあげられました。一方、弱みとしては、商店街に若者が少なく、買物などで街の外に出て行ってしまいう人が多いことなどがあげられました。

■プレワークショップで頂いた主な意見の整理

①にぎわい空間づくり

地域資源：地域の神社（様々なイベントの動線になるチャンス）／梨の高いブランドカ
イベント（祭り）空間がなく、転々としている
人：若者（学生）が少ない
都市環境：知名度が低い
まちづくり：今後のスケジュールが見えない／整備のスピードが遅い
商業：厳しい商業環境／魅力ある商店が少ない／買物が不便

②个性的で魅力ある景観の形成

水：用水路の活用／多摩川に近い
交通：駅に近い／交通が便利で皆外へ出かけてしまう
地域資源：もみじや梨・秋は稲城というイメージ／梨のブランドカ／自然が豊富／緑が多い
都市環境：傾斜が少ない／全体的に昔の面影がある

③安全・安心で誰もが暮らしやすい都市機能

青字：強み／赤字：弱み
交通：交通の便が良い／都心へのアクセス／近隣市街地に近い
駐車場が少ない／バスが来ない／ペアリーロードの時間制限が困る
人：親切な人が多い／人口が少ない
都市環境：ベッドタウン／お年寄りにとっても住みやすい
歩きにくい／暗い／夜がさびしい

■「地域主体の空間づくり」とは？

まちに生活・活動している人の生活体験や視点からまちの空間づくりを発想しよう

- 1) 様々な立場から発想
居住者、商店経営者、事業主、高齢者、子育て世代、学生、訪れる人、…
- 2) みなで考えるプロセス
ワークショップで作業してアイデアを出し合う／イベントをして町の人々の声を集める／自分たちの言葉で表現した計画へ
- 3) 整備後の使いこなしを考える
地域運営（エリアマネジメント）／まちづくりのコンセプトに基づいて、空間整備から、維持管理活動、各種イベントまでを行なう

■ 事例の紹介

事例① 山形県鶴岡市 山王商店街

人が主役の道という考えのもと、公共空間である道路、商店街、そして個々の商店が協調して改修を進めています。



事例② 福島県二本松市 駅前広場

駅前広場の整備にあたって、地域資源である提灯祭りの舞台にもなるように配慮した整備が行なわれています。



事例③ 山形県鶴岡市 山王商店街

店主、設計者、市、建築家、商店街などが作る「まちづくり相談所」がまちづくり協定に基づき、店舗計画、デザイン協議を行なっています。



～第2回意見交換会のまとめ～

秋山先生／皆さんがどういうまちを作るかをいろいろな視点で考え、多様な意見をいただきながら決めていけたら良いと思う。街並みをどうするかを今からできるだけ想像し、ぶつけて頂きたい。

川原先生／緑豊かな住宅地の中に、多様な人、若い人が入りやすいような場所を用意すべきであり、そのためには区画整理だけではなく、地権者の方がこのまちをどのようなまちにしたいのかということ議論の出発点としたい。

榎本課長／区画整理のスケジュール等の情報を示し、その上でどんなまちをつかっていくかという皆さんのご意見を頂くようにしたい。ワークショップの進め方については、本日のご意見を参考にさせていただき進めていきたい。



プレワークショップの様子



各班からの発表

稲城長沼駅周辺地区 まちづくりニュース

平成 22 年 8 月発行

NO.2

日頃より、地域の皆様におかれましては、市行政にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

稲城市では、稲城長沼駅周辺地区を市の「活力創造拠点」として位置付けており、“みんなでつなぎ、受け継ぐまちづくり”を目標に、土地区画整理事業によるまちづくりを進めています。

まちづくり市民ワークショップには、広報等での募集や推薦に応じていただいた方にご参加いただいております。稲城長沼駅周辺地区における公共施設整備について、「ワークショップ形式」により広く市民の皆様の意見を取り入れ、より良いものにしていくことを目的として、全6回開催する予定としております。

本号は、2月、5月、7月に開催した第1～3回まちづくり市民ワークショップの開催結果についてお知らせします。



～ワークショップの全体スケジュール～

全体スケジュール

第1回市民ワークショップ
(平成22年2月6日)

□稲城長沼駅周辺と矢野口駅周辺の現地見学後、気づいた点、まちの将来像について意見交換を行いました。

第2回市民ワークショップ
(平成22年5月27日)

□稲城長沼駅周辺のまちづくりにおける駅前広場・駅周辺のにぎわいづくりについて、これまでの検討経緯を説明し、駅前広場について意見交換を行いました。

第3回市民ワークショップ
(平成22年7月3日)

□前回の駅前広場の検討結果の確認をおこなうとともに、駅前通り線について、これまでの検討経緯を説明し、意見交換を行いました。

第4回市民ワークショップ
(平成22年8月28日予定)

□他地区の先進事例の視察後、稲城長沼駅周辺地区についての検討を行います。

第5回市民ワークショップ
(平成22年9月頃)

□駅前広場、駅前通り線の計画づくりについて意見交換を行います。
□今後への課題、使いこなしについて検討を行います。

第6回市民ワークショップ
(平成22年10月頃)

□これまでのワークショップでの検討結果を踏まえた最終案の報告を行います。

～稲城長沼駅周辺のまちづくり～

稲城長沼駅周辺地区においては、現在、東京都のJR南武線連続立体交差事業にあわせて土地区画整理事業により安全で快適なまちづくりを一体的に進めています。

稲城市では、稲城長沼駅周辺地区を市の「活力創造拠点」として位置付けており、“みんなでつなぎ、受け継ぐまちづくり”をまちづくりの方向性としています。

地区の位置づけ 「稲城市の活力創造拠点」

鉄道の利便性と商業・業務・文化・交流・居住機能が複合した稲城の文化・活力を育む中心地区

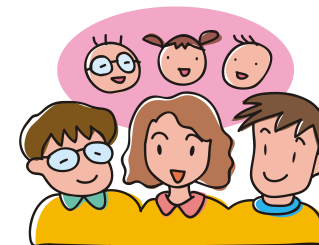
まちづくりの方向性
みんなでつなぎ、
受け継ぐまちづくり

まちづくりの課題とイメージ



① にぎわい空間づくり

水・緑・人とのふれあいが
活力を創出するまちづくり

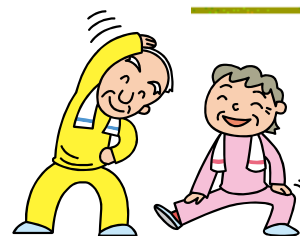


② 個性的で魅力ある 景観の形成

環境とうまくつきあうまちづくり

③ 安全・安心で 誰もが暮らしやすい都市機能

誰もが使いやすく安らぎのある
生活空間のあるまちづくり



お問合せ： 稲城市都市建設部 区画整理課（担当：持田、木村）
〒206-8601 東京都稲城市東長沼2111番地
TEL 042-378-2111（代）/FAX 042-378-9719

～第1回 まちづくり市民ワークショップ～

第1回まちづくり市民ワークショップは、2月6日（土）に開催し、地域の方、一般市民の方など29名にご参加いただきました。

ワークショップ当日は、お天気には恵まれたものの、非常に寒期中、現地を歩いていただくことになってしまいましたが、まち歩きをして気づいた点、まちの将来像について、活発な話し合いが行われました。

- 日時：平成22年2月6日（土） 13時30分～17時00分
 場所：稲城市役所4階 議会会議室
 参加者：29名（3班構成）
 アドバイザー：首都大学東京 都市環境学部 川原晋 准教授
 内容：ワークショップの目的・本日の進め方
 まちづくり意見交換会の開催報告
 稲城長沼駅周辺地区のまちづくりについて
 - ・稲城長沼駅周辺のまちづくり
 - ・土地区画整理事業の概要
 - ・その他（JR南武線連続立体交差事業の概要等）
 現地見学（※）
 - ・矢野口駅周辺
 - ・稲城長沼駅周辺
 グループワーク（※）
 - ・まち歩きをして気づいたこと
 - ・まちの将来像について
 感想・まとめ（※）



ワークショップ風景

※印の項目については、以下に詳しく内容を掲載しています。

～現地見学(矢野口駅・稲城長沼駅)～

最初に、先行して高架化が完了している矢野口駅周辺の見学を行ない、具体的な整備のイメージを膨らませていただいたあと、稲城長沼駅に移動し、地区周辺の見学を行ないました。



矢野口駅高架と駅前の状況



稲城長沼駅高架工事の状況と水路



グループワークと各班の発表の様子

～グループワークの結果～

現地見学終了後、矢野口駅の整備状況を踏まえた上で、稲城長沼駅の将来イメージについて各班で話し合いを行ないました。頂いた主な意見を以下に整理しました。

■ワークショップで頂いた主な意見の整理

矢野口駅

- 駅前広場：◎街が明るくなった／出来上がったものは良い
 ▲障害者用信号がない／商店街に統一性がない／とりあえずの「駐車場」では発展が遅れる／緑地が少ない／公衆トイレがない／シンボル性が欲しい／一般車の送迎スペースがない／人が留まる広場を感じない／改札口から見て街に夢がない／狭い
 ◆散歩ができる場所／賑わいが出るような店舗／シェルターなどの屋根施設／今後の保守・補修
 駅周辺の建物：◎建物が新しい／お店が多い
 ▲街並みの統一感がない／活気が少ない／◆高齢者も休憩できる所（コーヒー屋）
 高架下の土地利用：◎有効利用されている／帰宅時の買物に便利／駐輪場が目立たない
 ▲店舗に魅力がない／駐輪場が遠く、空いている／◆貸し店舗用地を駐車場に
 その他：◎多摩川に近い／歩車分離されている
 ▲多摩川が生かされていない／駐輪場が明確でない／歩道に放置自転車が多い／交番がない
 ◆高齢者に対する配慮／歩道と分けた自転車レーン設置

稲城長沼駅

- 駅前広場：◆交番・防犯カメラの設置／公衆トイレの設置／南山の木を移植できないか／花の木（桜・カリン・ハナミズキ）／シンボルが欲しい／休めるベンチ／北側に駐車スペースがあると良い／散歩コースの案内表示／スーパーやお店で賑やかに／人が集まる駅前をしたい
 駅周辺の建物：◎昔の風景が残っている／商店街がある
 ▲清潔感がない／子連れで安心して買物ができない
 ◆電柱の地中化／庶民的で調和のとれた商店街／有名店の誘致／人の集まる施設の建設／商業の魅力が欲しい
 高架下の土地利用：◆市内業者である出店希望者は優遇して欲しい／市の出張所／避難場所／集会所・休憩所
 その他：◎用水と桜並木
 ▲川崎街道にバスが通らない／歩車道の分離がされておらず危険
 ◆イベント、防災倉庫のある公園／稲城のブランドをアピール／明るく段差のない街／まちづくりに市民の声を反映させる

提案

◎青字：良かった点／▲赤字：改善が必要な点／◆緑字：提案

～ワークショップのまとめ～

川原先生（アドバイザー）：稲城長沼の駅での人の動きや活動のイメージが具体的に出され、とても良い話し合いでした。稲城で人が集まる場所とはどういう所なのか、さらにイメージを膨らませて頂きたいと思います。

駅前広場の表情は、高架下に入るお店や道路によって決まるので、ワークショップで高架下利用についても提案できるよう、一緒に考えていきたいと思っています。

稲城のまちのゲートをどうつくるかという意見、駅前広場と公園をイベント広場のよう一緒に利用したいという提案は非常に良いと感じました。駅の北側と南側をつなげるための工夫もあわせて今後考えていただきたいと思っています。

区画整理課長：活発なご意見をいただき、私たちも気づかない点もご議論していただきました。次回は、本日のご意見や、これまで検討してきたことを紹介させていただきながら具体的に内容を詰めていきたいと思っています。

～第2回 まちづくり市民ワークショップ～

第2回まちづくり市民ワークショップは、5月27日（木）に開催し、17名にご参加いただきました。

日時：平成22年5月27日（木） 19時00分～21時00分

場所：地域振興プラザ4階 会議室

参加者：17名（3班構成）

アドバイザー：首都大学東京 都市環境学部 川原晋 准教授

内容：ワークショップの目的・本日の進め方

前回のワークショップのまとめ

これまでの検討経緯について

意見交換・駅前広場について

●駅前広場の交通施設の配置案について

●駅前のにぎわいに必要なものとその使い方・配置
（商業施設・公共施設・水路・イベントその他）

本日のまとめ



～意見交換の結果～

意見交換では、駅前広場をテーマとし、駅前広場の交通施設（バス・タクシー・一般車）の配置についての事務局案【(A案：北口…タクシー/南口…バス、一般車)・(B案：北口…一般車/南口：バス、タクシー)】の検討と、駅前のにぎわいづくりに必要な施設やイベントについての検討をしました。

駅周辺のにぎわいづくりについては、南北の駅前広場の一体感や商店街・公園とのつながりをつくること、駅周辺を「顔」とした整備を行なうこと、水路を活かし、歩いて楽しい空間とすることなどが意見として挙げられました。

～第2回ワークショップのまとめ～

川原先生（アドバイザー）：駅前広場について、交通機能だけでなく、にぎわいやイベントという観点からの話し合いが進んでいて良かったと思います。次の段階として、にぎわいづくりやイベントを誰がやってくれるのかを考える必要があります。商店街や新しく入ってくるテナント、学生などが考えられますが、学生であれば、小さくても良いので活躍できる場所を作ってあげることが効果的であるため、今回は担い手についても考えていただけたらいいのではないかと考えています。

区画整理課長：活発に色々なご意見を出していただき、市民の皆さんの意見を聞くことが非常に大事だと改めて認識しました。我々としては皆さんの意見を実現できるよう具体化の背策をしていきたいと考えております。矢野口。南多摩、榎戸など、各地区が地域の特性を活かし、魅力あるまちづくりを競って頂いています。稲城長沼地区は市の中心として、南武線3駅の中で一番広い駅前広場を活かしていただければと思っています。

～グループワークの結果～

■各班の特徴的な意見

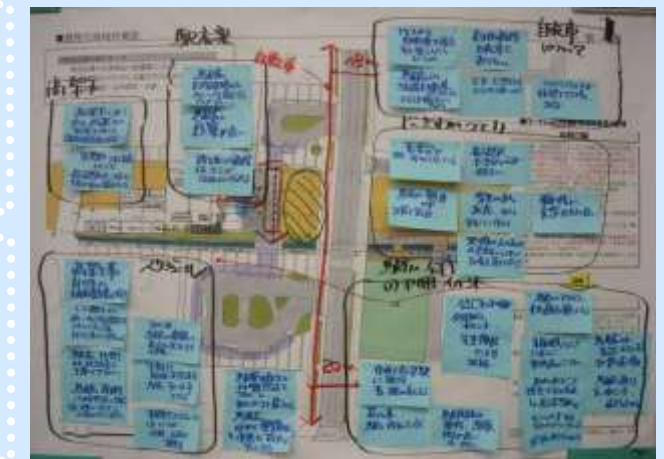
～第1班の特徴的な意見～

駅前広場について

- 自家用車は北口駅前広場へ分離する
- 地域の人のための駅広としたい
- 自由通路に自転車を通さない

にぎわいづくりについて

- 学生の街（お店、アパート、安心）
- 多目的イベントに公園を利用
- 稲城らしさのためのシンボル



～第2班の特徴的な意見～

駅前広場について

- 改札前のスペースを一般車送迎用に
- 駅広に面した建物の1階は店舗にする
- 公園と駅広を橋で接続させる

にぎわいづくりについて

- 公園に水路を引き込む
- フリマ、梨や野菜の直売などが帰り道に
- 大規模な商業施設の誘導ができないか



～第3班の特徴的な意見～

駅前広場について

- 一般車と公共交通は分けた方が良い
- 改札前のスペースをオープンにする（南北の見通し確保で一体感）

にぎわいづくりについて

- 公園ではなく駅広、自由通路でイベント
- 駐輪場を両サイドに設け、商店街へ誘導
- 住宅前の公園をどうつくるかが課題



～第3回 まちづくり市民ワークショップ～

第3回まちづくり市民ワークショップは、7月3日（土）に開催し、18名にご参加いただきました。

日時：平成22年7月3日（土） 9時30分～11時30分
 場所：地域振興プラザ4階 会議室
 参加者：18名（3班構成）
 アドバイザー：首都大学東京 都市環境学部 川原晋 准教授
 内容：ワークショップの目的・本日の進め方
 前回のワークショップのまとめ
 これまでの検討経緯について
 意見交換 駅前広場について（前回のまとめを受けて）
 駅前通り線について
 （自転車道・歩道・植栽帯・水路・その他）
 本日のまとめ



～駅前通り線の検討内容について～

駅前通り線は幅員18m～20m、地区内を南北方向に走る大通りとして計画されています。将来的には、既存の道路とのネットワークにより、多摩川から京王線稲城駅へと繋がる歩行者動線の軸となることが考えられます。

第3回の意見交換では、事務局でこれまでに検討してきた駅前通り線の整備案（A案：両側歩道が自転車歩行者道／B案：西側は自転車・歩行者分離、東側は自転車歩行者道／C案：両側とも自転車・歩行者を分離するが東側は植栽なし）や道路構造令などを参考に、より使いやすい駅前通り線のあり方について、具体的に検討しました。

～第3回ワークショップのまとめ～

川原先生（アドバイザー）：各班でアイデアが分かれた部分がありましたが、本話題に出た向陽台のパーキング、府中の並木と国立の並木、1.5mの自転車道などを実際に体験してみると、見え方や考え方もまた違ってくると思います。次回は、先進事例の見学が予定されていますが、皆さんの空間体験がこれから具体的な内容を詰めていく際に大事になってきます。道路の断面を考える際にみられた工夫は、市民参加によるまちづくりならではのことだと思いますので、色々なものを吸収し、具体的な成果にしていければと思っています。

区画整理課長：様々な意見をお聞きし、歩行者や自転車、車など、色々な視点で考えることが大事だと感じました。稲城長沼駅全体を考えていく中で、まちの活性化と道路の作り方を結びつけるなど、実現に向けて検討していきたいと思っています。

幅員が18mや21mの駅前通り線を考えるにあたり、幅員16mのいちよう並木通りなどを参考として見て頂き、そこで気づいた点を反映させて頂ければと思います。

～グループワークの結果～

～第1班の特徴的な意見～

自転車道・歩道について

- 両側とも自転車と歩道を植栽帯で分離するのがよい
- 自転車道は東西とも一方通行とする（対面通行は危険）

植栽帯・水路について

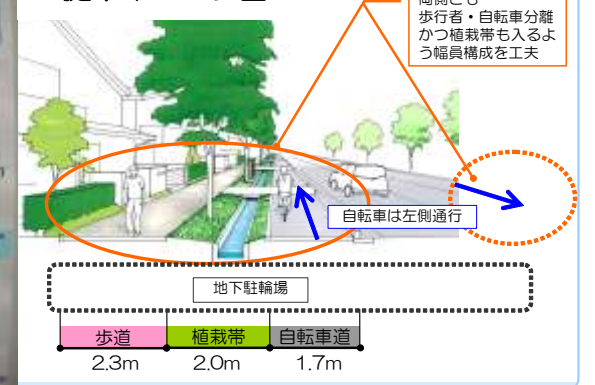
- 浅い水路を歩道へつくる
- 幅員構成を工夫して、東側にも植栽帯を設け、補助的に宅地内の緑化も図る

その他

- 水路と緑地帯の一部に駐輪スペースを作る
- 地下駐輪場



■提案イメージ図



～第2班の特徴的な意見～

自転車道・歩道について

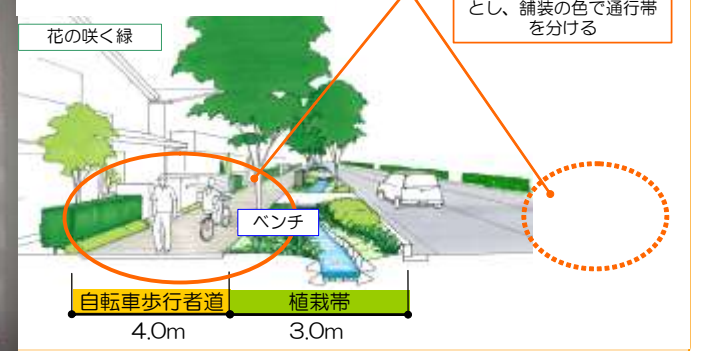
- 両側ともに4mの自転車歩行者道を設け、舗装の色で自転車と歩行者の通行帯を分ける
- 東側は自転車歩行者道を4m確保するため、植栽帯の幅を狭める
- 駅前通り線を市内のサイクリングコースの中に位置づける

植栽帯・水路について

- 植栽は高木も良いが花の咲く緑が良い
- 水と緑が一体となるよう、水路をゆるやかに蛇行させる
- 水路でも緑でも管理が大事 ●休憩ができるベンチ



■提案イメージ図



～第3班の特徴的な意見～

駅前通り線について

- 地域全体でのサイクリングコースとの位置づけであれば、自転車と歩行者は分離する
- 水路のある部分は、水路と自転車専用道路とする
- 沿道に一時的にパーキングとして使えるようなスペース

駅前でのにぎわいづくりについて

- 安全面での配慮が必要（交番設置・暴走族対策）
- 道の駅、産直、市民農園の野菜販売、若い人がお店を出せる場、お年寄りが休憩できる場づくり、商店街利用者のためのコインパーキング設置



稲城長沼駅周辺地区 まちづくりニュース

平成 23 年 1 月発行

NO.3

日頃より、地域の皆様におかれましては、市行政にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

稲城長沼駅周辺地区では広報等での募集や推薦に応じていただいた方にご参加いただき、まちづくり市民ワークショップを平成 22 年に全 6 回開催し、活発なご意見といただきました。

今号ではワークショップの第 4 回から第 6 回の概要と検討結果のご報告をいたします。

検討結果を踏まえ、今後ご意見をいただきながら、具体的な検討を重ね、安全で安心して快適なまちづくりを推進してまいります。



～ワークショップの経過～

第 1 回市民ワークショップ
(平成 22 年 2 月 6 日)

□稲城長沼駅周辺と矢野口駅周辺の現地見学後、気づいた点、まちの将来像について意見交換を行いました。

第 2 回市民ワークショップ
(平成 22 年 5 月 27 日)

□稲城長沼駅周辺のまちづくりにおける駅前広場・駅周辺のにぎわいづくりについて、これまでの検討経緯を説明し、駅前広場について意見交換を行いました。

第 3 回市民ワークショップ
(平成 22 年 7 月 3 日)

□前回の駅前広場の検討結果の確認をおこなうとともに、駅前通り線について、これまでの検討経緯を説明し、意見交換を行いました。

第 4 回市民ワークショップ
(平成 22 年 8 月 28 日)

□他地区の先進事例の視察と、稲城長沼駅周辺地区についての意見交換を行いました。

第 5 回市民ワークショップ
(平成 22 年 10 月 23 日)

□駅前広場、駅前通り線の計画づくりについて意見交換を行いました。

第 6 回市民ワークショップ
(平成 22 年 12 月 18 日)

□これまでのワークショップでの検討結果を踏まえた最終案の報告と意見交換を行いました。

～第 4 回 まちづくり市民ワークショップ～

第 4 回まちづくり市民ワークショップでは、稲城長沼駅周辺地区のまちづくりについて、皆さんにイメージを広げていただくため、他地区の先進事例の視察を行いました。

ワークショップ当日は、非常に暑い中、視察地を歩いていただくことになりましたが、移動中の車内からの見学も含め、合計 5 箇所の視察を行いました。

当日の視察の様子



～第 5 回 まちづくり市民ワークショップ～

第 5 回の意見交換では、駅前広場、駅前通り線の整備計画案をテーマとし、これまでのワークショップでの意見が反映されているかどうか、また駅前広場周辺の機能の配置、植栽などの維持管理、駅前通り線の A 案（自転車道・歩道を植栽で分離する案）と B 案（自転車道・歩道を舗装で区分する案）について、良い点・悪い点などの検討をしていただきました。



ワークショップ風景

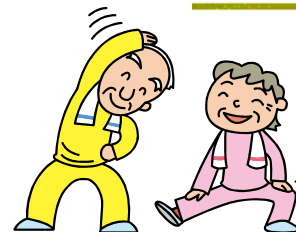
～第 6 回 まちづくり市民ワークショップ～

第 6 回の意見交換では、これまでのワークショップでの検討結果を踏まえた最終案の報告と意見交換を行いました。

これまでのワークショップでの意見をもとに作成した CG 等を見ていただき、駅前広場及び駅前通り線の整備計画案について意見をいただきました。



ワークショップ風景



お問合せ： 稲城市都市建設部 区画整理課（担当：持田、木村）
〒206-8601 東京都稲城市東長沼 2 1 1 1 番地
TEL 042-378-2111（代）/FAX 042-378-9719

～まちづくり市民ワークショップの結果～

1年間に渡る意見交換の結果、様々なご意見をいただきました。それらの意見をもとに、ワークショップでは、以下の基本方針案を作成いたしました。今回の検討結果を踏まえながら、今後ご意見をいただきながら、関係各所との協議を重ね、具体的な検討を進めてまいります。

駅前広場の基本方針

- ・バス・タクシーは、利用者の利便性に配慮して、南口駅前広場にまとめて配置します
- ・雨の日も濡れずに各乗り場まで移動できるよう、自由通路から連続したシェルターを配置します。
- ・駅前広場には、シンボルツリーやモニュメントを設置し、稻城らしさを視覚的に表現します。
- ・南北の駅前広場、公園相互の空間を開放的につなぐことにより、駅全体の一体感を形成します。

■課題：これまでの検討の中で出された機能（交番、子育て施設、

飲食店、スーパー、イベントの場所、直売所、休憩場、コインパーキング等）の配置



北口駅前広場のイメージ(障害者用・一般車用)



水路の水演出

- ・水路の水を活かし、落水等により、駅前空間の魅力アップを図ることを検討します。
- ・水路は、生態系に配慮した構造とするほか、既存の水路のイメージを継承した石積み仕上げを検討します。

◇ワークショップでは、景観や親水性を考慮して、橋の有無・形状等を再度検討するという意見が多く出された。

水路イメージ



・自由通路に接続する部分はデッキ状とし、南北の駅前広場のつながり感をつくる

・開放的なデッキなどにより、隣接する公園・歩道と空間の一体感をつくる



・阿波踊り、よさこい、朝市、山車などのイベントの起点となる広場空間



・通りに名称をつけ、カフェやレストラン、または地元産品を販売する店舗など、共通のテーマを持つ店舗を誘導



・バス・タクシーは、利用者の利便性に配慮して、南口の駅前広場にまとめて配置

・雨の日も濡れずに移動できる、自由通路から連続した上屋
◇ワークショップでは、上屋を全面に設けるのではなく、必要最低限に止めて空間を確保するという意見にまとまった。(↓上屋イメージ)



・バスが正着しやすい切欠き型のバス乗場



・交通島または旧水路に沿った位置にシンボルツリーやモニュメントを設置(梨・ガンダムなど)

・旧水路の位置を舗装パターンに残す
・区画整理の歴史や水路の歴史を紹介する案内板を設置

お城の石積みのあった場所を歩道に石で表現した事例



・散歩の際に気軽に利用できる児童用遊具や健康遊具

健康遊具の例



広場の水演出：子供が水遊びのできる噴水



(夜間のイメージ)

基本方針（駅前通り線）

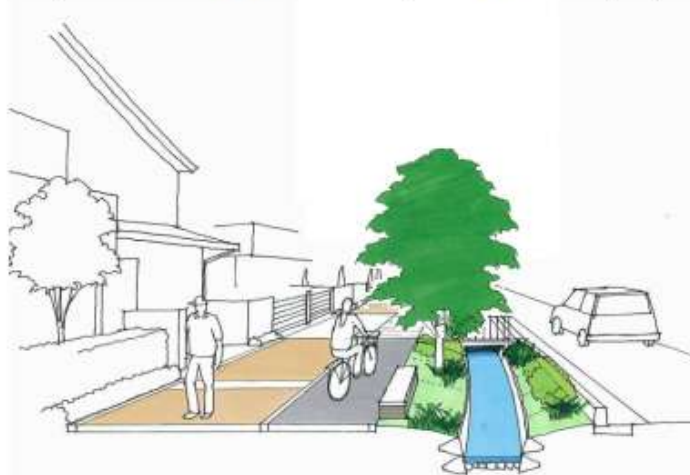
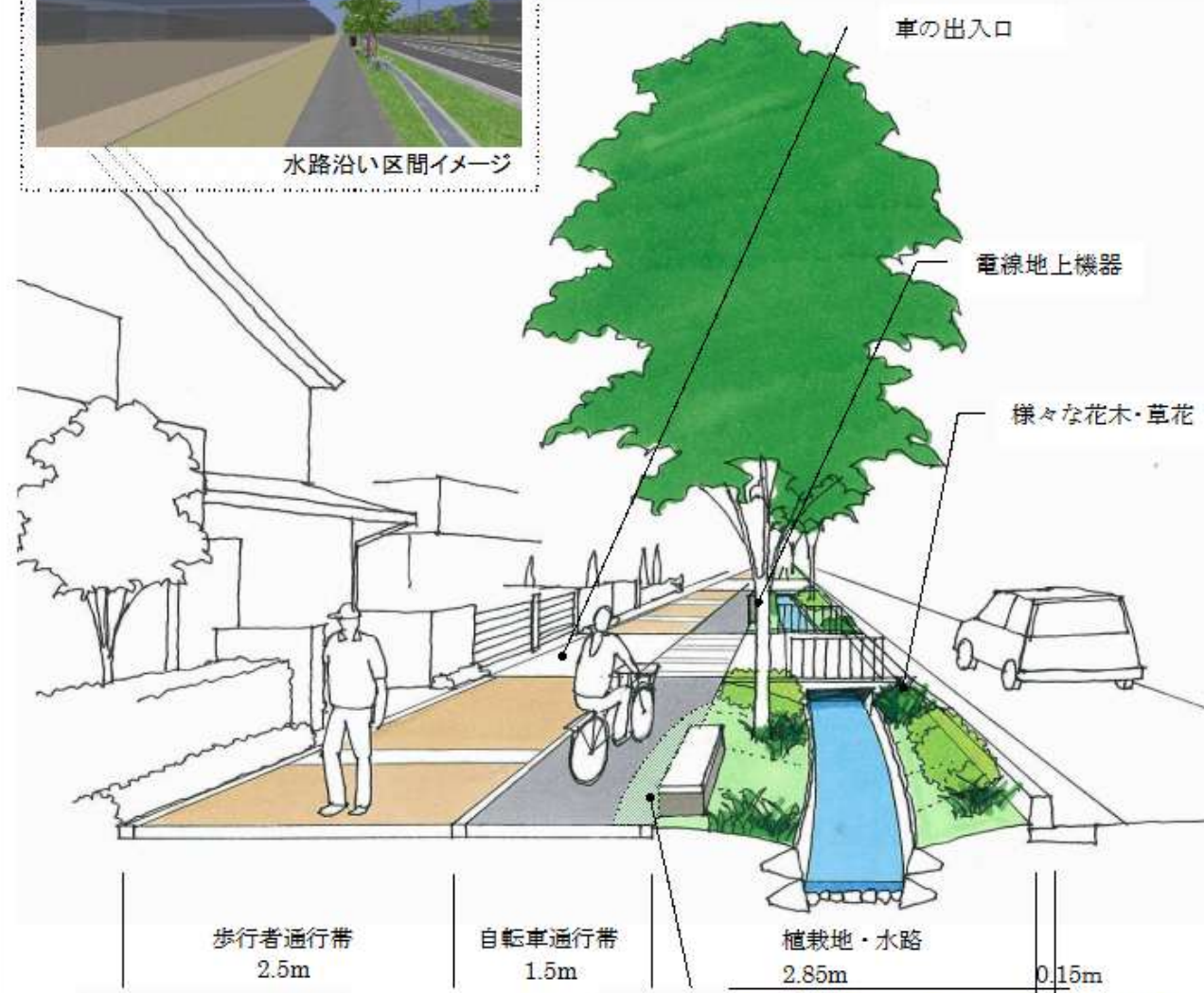
- ・自転車道・歩道の分離方法として、舗装や白線による分離案を採用することとします。
- ・独立した自転車道、歩道は、それぞれ巾 1.5m、巾 2.0m 以上を確保します。

- ・路上機器が設置可能な植栽帯は、概ね巾 1.0m を確保します。
- ・自転車・歩行者道を舗装区分する場合は、巾 3.0m 以上とします。
- ・道路中心線・車線は、全線を通じて位置がずれないようにします。

水路沿い イメージスケッチ（高木植栽）



水路沿い区間イメージ



中低木植栽のパターン

◇ワークショップでは、安全性の確保を図るために、自転車道の形状変更等も含めたベンチや水路の配置について再検討するという意見が出された。

自転車・歩行者道を舗装で区分する案

- ・東側の歩道は、自転車歩行車道として合計巾 3.0m、路上機器が設置可能な植栽帯（巾 1.0m）を確保するため、歩道総幅員を 4.0m とします。
 - ・そのため、車道総幅員は 10.0m となります。（右折レーンも巾 3.0m で走行レーンと同じ）
- 長所：**
- ・自転車道・歩行者道が一体で広々感があり、自転車の相互通行が可能です。
 - ・水路幅が 3.0m 確保でき、緩やかな蛇行などによる自然の雰囲気づくりが可能です。
- 課題：**
- ・自転車がすれ違い時歩行者通行帯に侵入するなど、完全な自・歩分離は難しい案となっています。

※日本人の自転車マナーの実情を考慮し、自転車の相互通行の可能性を残した、「現実重視案」といえます。

（旧川崎街道以北・水路沿い区間）

